



TITLE:

産業集積のダイナミズムにおける
協同組織の役割と限界性－1970年
代以降の産地型集積と誘致型工業
団地－(Digest_要約)

AUTHOR(S):

陳, 慕薇

CITATION:

陳, 慕薇. 産業集積のダイナミズムにおける協同組織の役割と限界性
－1970年代以降の産地型集積と誘致型工業団地－. 京都大学, 2019, 博
士(経済学)

ISSUE DATE:

2019-03-25

URL:

<https://doi.org/10.14989/doctor.k21525>

RIGHT:

学位規則第9条第2項により要約公開

課程博士学位論文の要約

産業集積のダイナミズムにおける協同組織の役割と限界性

—1970年代以降の産地型集積と誘致型工業団地—

本論文は、グローバル化社会において、産業集積の形をとる地域的な経済活動が衰退・停滞する傾向に着目し、2つの課題を設けている。第1に、外部経済を生み出す産業集積のメカニズムの構造を抽出し、社会経済条件の変化に伴う構造的変化を追跡することである。第2に、そのような構造的変化において、事業者による協同組織がどのような共同事業を進めて外部経済を創出し、またその外部経済が事業者レベルでの内部化が実現できるのかを検証していくことである。

このような課題を解明するために、1970年代以降の衰退している産地型集積の事例として京都市にある京黒染産地を、地元経済への波及効果が不足している誘致型工業団地の事例として福知山市にある長田野工業団地をとり上げる。

まず、本論文では産業集積のダイナミズムを解説するために、「外部経済」を生み出す産業集積のメカニズムに注目する。産業集積における外部経済が企業間の「相互作用」により生み出されるというマーシャルの指摘(Marshall 1920)に基づいて、地域経済学での「柔軟な専門化」の構造分析と、社会経済史学での「在来産業」の時系列的分析の方法論を批判的に受容する。そこで、産地型集積のメカニズムは、既存の垂直的取引関係と水平的同業者関係の組み合わせであり、地域社会もその組み合わせに関係するという理論枠組を提起する。具体的には産地型集積が衰退する過程を分析するために、このメカニズムの構造的変化を、社会経済史的な視点から追跡していく。他方、誘致型工業団地は、既存の企業間関係がほとんど存在せず、しかも地域経済への波及効果をねらって政策的に建設されたものである。その特殊性を踏まえたうえで、誘致型工業団地内での外部経済ではなく、誘致企業から地元経済への波及効果を考察し、両者のリンケージとそれに影響する地域的要素を誘致型工業団地のメカニズムとする。そのリンケージの形成が制約された原因を、地域の立地条件にもとめて、誘致型工業団地のメカニズムにおける構造上の問題を指摘する。

次に、グローバル化社会における様々な問題に直面してきた産業集積のダイナミズムをめぐる、マーシャルが議論した自然発生の外部経済以外に、産地主体が共同事業により能動的に創出する外部経済が注目されるようになった。その二つをまとめて「集团的効率性」といい、協同組織による共同事業が外部経済を創出することができるという指摘があった

(Schmitz 1999)。しかし、産業集積のメカニズムが構造的な限界性を有したり、あるいは社会経済条件とともに変化したりしているため、協同組織による共同事業は持続的に外部経済を創出し、しかも外部経済の事業者レベルでの内部化が実現されるとは限らない。したがって、協同組織の役割と限界性を産業集積のメカニズムの中で理解していく必要がある。

こうした理論的な枠組みを明確にしたうえで、第1章から第3章までは、1970年代以降京黒染産地のメカニズムの構造的変化を究明し、また京黒染組合という同業者組合による公害問題、市場の縮小、技術変化への共同的対策を検討する。市場の縮小をはじめとする社会的・経済的条件の動向により、垂直的取引関係においては問屋が生産者と消費者を繋げる機能や専門化された各工程を繋げる機能が弱体化した。この構造的変化に対し、水平的同業者関係を基盤とする京黒染組合は、組合員を対象とする事業を充実したのみならず、垂直的取引関係上の関連工程との団体連携を進め、市場への直接的な接触も試み、さらに産地や業種を超える交流も図っていた。しかし、産業集積のメカニズムの構造的変化は組合員の実力を弱め、団体連携を妨害し、また技術研究と品質向上による付加価値の実現を阻害してしまった。こうして、共同事業により創出された外部経済は持続できず、事業者レベルでの内部化も挫折してしまった。

他方、第4章では産業集積のメカニズムという視点を誘致型工業団地に適用し、福知山市の経済的立地条件の劣位により、長田野工業団地と地元経済とのリンケージの形成が阻害されたという結論を得た。また、長田野工業センターという団地企業からなる協同組織は誘致企業と地元企業との交流活動を進め、垂直的リンケージと水平的リンケージを形成させようとしたが、産業集積のメカニズムの構造上の限界性により、工業センターによる波及経済の創出が制約されたといえる。しかし一方、誘致企業が重視している地理的・社会的立地条件と立地政策と、誘致企業の事業変化を考えると、誘致企業対地元経済という構造の中に、リンケージが形成される可能性が潜んでいるといえる。

このように、本論文は二つの産業集積の類型を対象に、産業集積のメカニズムの構造とその構造的変化を分析することにより、産業集積の形を取る地域的経済活動の衰退と停滞の原因を明らかにした。また、それに対応する協同組織が外部経済を創出する能動性を有している一方、産業集積のメカニズムから制約も受けていることも析出でき、総じて産業集積のダイナミズムを解明したと考える。